

2 0 2 1 年 度

(令和3年度)

事業計画

学校法人 京都橘学園

## 2021 年度事業計画

京都橘学園は、長期ビジョン（2019～2026）および実行プラン（2019～2022）で構成する「第2次マスタープラン」の取り組みを進めます。

第2次マスタープランでは、第1次マスタープランからの課題を引継ぎつつ、本学園を取り巻く環境や現在の到達点と課題を踏まえ、プラン全体を再検討し、総合学園としての教育保育の充実や規模拡大、就職進学実績の向上、研究支援、地域連携・貢献などの方向性を策定しました。長期ビジョンの実現に向けて、2022年度までの目標数値を含めて定め、実行プランを具体化します。そして、年度ごとに計画と実施と振り返りを積み重ねながら目標を達成します。

京都橘大学においては、長期ビジョン実現にむけて、2021年4月に工学部、経済学部、経営学部を開設し、総合大学としてさらなる発展をめざします。また、今後、教養教育の展開やスポーツ振興などの必要な喫緊の課題を追加する予定です。

2023年度以降を予定している第3次マスタープランについては、社会環境の変化や競合の状況などを分析し、今後、変化の激しい社会の中で学園がどのような方向で発展すべきかについての議論を開始します。

京都橘中学校・高等学校では、生徒数1,200人規模の学校を実現し、文武両道の学校教育をめざします。

開園3年目を迎えるたちばな大路こども園においては、教育保育の質を高める取り組みを強化します。

### 1. 京都橘大学

#### (1) 教育活動の推進

- 全学においては、教育の質保証を推進するための施策として、新ポータルサイトシステムによる学生の自己省察を促す履修指導體制の構築と運用、長期休暇等を活用した体験型学修プログラムを核としたキャリア教育の構築と運用を計画するとともに100分授業における教育方法の改善にむけた取り組みをすすめます。
- アカデミックリンクスに学習支援センター(仮称)を開設し、運用を開始します。
- 国際英語学部においては、2021年度入学生から新カリキュラムを適用し、「グローバルビジネス」「グローバルツーリズム」「国際教養」の3つのコースに整理して教育課程の充実を図ります。さらにはSAP(Study Abroad Program)を単独の科目として新設し、帰国後の学びをさらに充実させるために留学期間を半年早め、2回生前期からの1年間の実施とします。
- 発達教育学部においては、教職・保育職への就職目標として公立幼保教諭および公立小学校教諭の合格率70%をめざし、児童教育学科と教職保育職支援室との連携強化により全国トップレベルの質を持つ教職・保育職養成をめざします。
- 2021年度は、経済学部、経営学部、工学部の開設1年目の開講を進めます。3学部の連携を推進し、充実した体験学習プログラムを計画、4年後の卒業時には、就職実績においても結果を残せる人材の育成をめざします。
- 看護学部においては、2020年3月に京都橘大学シミュレーション・コモンズ(略称 Citrus SIMCO/シトラス・シムコ)を整備し、シミュレーション教育の本格導入を開始しました。2021年度からは看護学部シミュレーション教育委員会を設置し、まずは看護学部のカリキュラムから、効果的なあり方を追求していきます。また、厚生労働省が進める地域包括ケアシステムの整備にも対応し、2019年度からの新カリキュラムにより、地域連携の強化に向けた教育プログラムを進めます。
- 健康科学部においては、心理学科と医療系4学科の教育連携を進め、人々の心身の健康課題に向きあえる医療職養成をめざします。個別課題では、心理学科において学部教育における公認心理師課程の実習を初めて行います。また、作業療法学科および臨床検査学科は完成年度を迎え、国家試験合格率100%に向けた取り組みを行います。
- 心理学科通信教育課程においては、国家資格公認心理師取得をめざす学生を支援しつつ、広く社会人が仕事や

家庭、地域活動などの場面で活用できる心理学の知識、スキルが身につく教育課程を展開します。

- ・大学院においては、2022年度に向けてCNS課程（共通科目・母性）の再申請の準備を行います。また、健康科学研究科博士課程（博士前期課程・博士後期課程）を開始するとともに、2023年度以降のコース追加についても準備を進めます。

## （2）研究活動の推進

- ・教学の特色と特徴を活かした研究の推進をめざし、総合研究センターの学際的研究プロジェクト「レジリエンス・プロジェクト」を継続して推進します。
- ・京都市および滋賀県などの自治体、企業、他研究機関との連携による学部学科の特色を生かした研究活動を推進し、研究成果を地域に還元します。
- ・科学研究費等の外部資金獲得に積極的に取り組むと共に、研究倫理教育および研究不正防止教育にも積極的に取り組みます。

## （3）学生支援活動の推進

- ・強化クラブ活動においては、各クラブの目標（サッカー部は1部リーグ昇格、女子バレーボール部はリーグ戦優勝および全日本インカレベスト4、弓道部はリーグ戦優勝および全国大会出場、吹奏楽部は関西吹奏楽コンクール金賞および代表）を達成できるよう重点的に支援します。また、各強化クラブにおいて、地域に根付いた活動や学内での活動を行い、学生自主活動の活性化を促進します。
- ・一般のクラブ・サークル活動においても、集団で活動する経験が社会生活で必要となる力として生きるよう活動支援を充実します。
- ・学生への奨学金および経済支援においては、2020年度から始まった高等教育の修学支援新制度を適切に運用し、支援の強化に努めます。また、高等教育の修学支援新制度と連動した、本学独自の新しい奨学金制度の運用を開始します。その上で、日本学生支援機構の奨学金活用を中心としつつ、大学独自の経済援助給付奨学金等を適切に運用します。
- ・障害学生支援に係る体制を整備します。障害学生支援室（仮称）を設置し、合理的配慮を必要とする学生に対する支援の充実を図ります。また、障害学生支援室を核として、アドバイザー、教務部および学生部間の連携を強化します。
- ・正課内外における学生のボランティア活動を支援し、学生の主体性を育てます。

## （4）就職支援活動の推進

- ・キャリアガイダンス、各種講座やセミナー、個人面談を通して、学生一人ひとりに就活実践力がつくよう支援します。
- ・低回生からの就業意識醸成と社会人基礎力の育成をめざし、社会との関わりの中で学生の意欲や主体性がより発揮できるインターンシッププログラムを計画推進します。
- ・U・Iターン就職協定連携府県市との関係強化を一層進め、地方企業に対する本学の存在周知をさらに拡大します。
- ・医療系学科と事務局が連携して、国家試験合格率100%に向けた国家試験対策を強化します。
- ・公安系公務員への就職支援を強化すると共に、人文、社会科学系学科の公務員試験支援対策も強化します。

## （5）地域連携の推進

- ・地域連携センターを中心として、京滋地区の「地（知）の拠点」となるための促進事業を展開し、地域連携活動を強化します。
- ・公開講座を旺盛に展開し、大学の教育研究成果を社会に発信します。

- ・大学コンソーシアム京都のプラットフォーム事業に参画し、京都に根づいた大学として、地域社会、行政および産業界との連携を促進し、地域の発展と活性化や学術研究成果の地域と産業社会への還元を図りつつ、高等教育の発展と社会をリードする人材の育成をめざします。

#### (6) 学生募集および広報活動の推進

- ・京都の私立総合大学としてのブランドイメージの確立をめざした広報を展開します。また、大学の日常ニュースも配信し、ステークホルダーが親しみを持てる大学づくりをめざします。
- ・学生募集活動においては、国際から人文、教育、社会、医療系まで幅広い分野にわたる京都橘大学の教育研究実績やコロナ禍での取り組みを丁寧に広報し、大学全体のブランド力向上を図ります。
- ・引き続き 2021 年度開設・定員増の学部学科についての募集広報を重点課題とし、2 年目となる入試の志願者増加を目指します。
- ・2021 年度入試の状況を分析し、実志願者増・のべ志願者増のための入試制度設計を検討します。

#### (7) キャンパス整備の推進

- ・地域の安全安心に貢献する開かれた次期キャンパス施設設備の整備を計画します。
- ・教育研究およびサークル、課外活動の充実に向けた施設設備の整備を計画・実施します。
- ・学生数増加に対応した交通アクセスの整備・実施を計画します。

## 2. 京都橘中学校・高等学校

### (1) 文武不岐の学校づくりと社会に貢献する人材の育成

- ・生徒たちが学業およびクラブ活動に励み、それらを計画的に進められるよう学習指導・進路指導を行い、進学実績の向上とクラブ活動の活性化を図ります。
- ・新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行い、これまでも行ってきた学校カウンセラーの配置、学校医等による定期検診、インフルエンザ予防ワクチン接種の校内実施などにより、生徒の心身両面での安心安全を図り、満足度の高い学校生活を実現します。
- ・生徒指導部を中心に生徒の規範意識向上に向けた指導を推進し、落ち着いた校風を安定して発展させます。また、地域からの生徒指導要望への的確な対応、生徒憲章の浸透、安心安全な学校づくりなどを進めます。
- ・授業アンケートの実施と分析、校長による授業見学、外部教育機関実施（オンライン含む）の各種教育研究セミナー・進路指導セミナーへの参加、学校主催の教育研究集会の開催、本校が契約するオンライン研修ツールの活用など、教員の教育力・進路指導力とチーム力の向上を図ります。
- ・学習指導要領の改訂スケジュールに基づき、中高のカリキュラム編成を適切に検討するとともに現行コースの改編も含め検討する。

### (2) 進学実績で生徒募集域でのトップ 50 に入る高校の実現

- ・通常授業の充実を図るとともに、ASTM(After School Tachibana Method)の取り組みをさらに発展させ、進学実績目標を達成します。
- ・思考力・判断力・表現力を一層重視する「大学入学共通テスト」が開始され、推薦入試では、小論文、プレゼンテーション、主体性等を評価するための面接を導入するなど、より多面的な方法による選抜が増加しています。それらの入試に対応するための対策講座の実施や最新の情報を提供するための様々なガイダンスを引き続き実施します。
- ・模試分析会を実施し、最新の模試データを活用した進路指導や分析結果に基づいたタイムリーな学力向上施策を実施します。
- ・タブレット端末を導入し、授業や放課後・家庭学習及び日々の学びや活動の記録等のキャリア形成など ICT を

活用した新しい教育の形を構築していきます。

- ・校内の自習環境の整備を進め、SL(Self Learning)やTM (Time Management) の取り組みを継続し、自学自習力のさらなる向上を目指します。
- ・特進系のコースの学力向上だけでなく、すべてのコース生徒の学力を向上させ、公募推薦・一般入試における合格者数増を目指すことで、進学実績の向上を図ります。
- ・特別進学(E)コース、総合進学(A)、中高一貫(V1)コースにおいて、京都橘大学への内部推薦および指定校推薦の積極的な活用により、進学実績の向上を図ります。
- ・京都橘大学への内部進学者数を安定して増やす取り組みを進めます。

### (3) 日本一を目指すクラブの育成等

- ・全国大会に出場する機会の多い5つのクラブについて、日本一になるための支援を引き続き行います。
- ・併せて、既存クラブのさらなる活性化を進めます。
- ・クラブの活性化に寄与するため第2グラウンドの整備を行います。

### (4) 募集力の強化と安定的な経営基盤の構築

- ・コロナ禍にあっても来校者に安心して参加できるオープンキャンパス、学校説明会や「ドリーム☆スクール」などを企画し、志望者が本校に来校していただくことで、本校の魅力を感じてもらい、志望者増を図ります。
- ・塾訪問活動の強化、全教員による中学校訪問の継続、外部での本校主催学校説明会の開催、学校案内、SNS、ホームページ、新聞広告などの有効活用を図り、本校の認知度向上、志望者増を図ります。
- ・学力の高い志願者獲得のための中高の特別奨学生制度を継続し、中学校の自己推薦型のプレミアム入試・適性検査型入試、高等学校の後期入試などを継続もしくは新たな入試制度の検討を行います。
- ・進学実績を高めるとともに特別奨学金を適切に運用し、国公立進学(S)コースへの志願者を増加させます。
- ・生徒募集情勢の分析とその対応をすばやく行うため、塾や関連機関からの情報を的確に分析し、検討します。

### (5) 伏見桃山の地で安定した学校づくり

- ・現キャンパスの長寿命化および魅力化計画を策定し、実行します。
- ・1200人規模の学校を安定的に維持するために既存建物改修による普通教室増および新規建物の建設を行います。

## 3. たちばな大路こども園

### (1) 安定した教育保育の提供

- ・「自立・共生」の教育保育理念のもとに、質の高い教育保育の提供をめざします。
- ・園庭の天然芝、緑あふれる丘の園舎で、園児が自然に触れ、生き生きと過ごせる教育保育環境を整えます。
- ・日々のコミュニケーションを通じて、保護者とも連携し、家庭と園が一体となって子どもたちの発達を保障するこども園をめざします。

### (2) こども園職員の資質能力の向上

- ・京都橘大学教員を講師に招き、特色ある質の高い職員研修を実施し、職員の資質能力の向上をめざします。
- ・こども園職員を外部研修に参加させ、さらなる資質能力の向上をめざします。

### (3) 子育て支援事業の実施

- ・地域に根ざしたこども園をめざします。子育て支援事業として、未就園児を対象に園庭開放や親子体験教室、一時預かり保育事業を実施します。

## 4. 京都橘学園

### (1) 学園のブランド力の強化

- ・第2次マスタープラン（2019-2026）」を実行に移し、総合学園としての教育保育の充実や規模拡大、就職進学実績の向上、研究支援、地域連携貢献などを推進します。また、第2次のプランに必要な追加を行うことや、第3次マスタープランの準備を始めます。
- ・学園ブランド力を強化するため、2019年度に立ち上げたリブランディング・プロジェクトを引き続き推進します。新タグラインの下、学園の新たなイメージを学内外へ浸透させる事業を計画します。

### (2) 事務局整備、職員育成の推進

- ・2021年度に現在の6学部13学科から8学部15学科へと大学教学組織の規模が拡大することに対応するため、大学事務組織を再編します。また、事務局体制強化のため、職員部長を配置するとともに、職員採用の実施および職員の成長を推進するための研修を実施します。

### (3) 学園施設の拡充

- ・学園の体育施設の整備を実施します。

### (4) 京都橘高等学校と京都橘大学との連携強化

- ・学園の総合的な発展のために、中学、高等学校、大学間の教学連携を強化し、高校から大学への内部進学を質量共に充実させます。

### (5) たちばな大路こども園と京都橘大学との連携強化

- ・たちばな大路こども園に学園職員としてこども園事務室長を配置します。また、学園の強みを活かし、大学との連携を組み込んだ保育幼児教育事業をこども園で展開します。

以上